



三河湾と遠州灘に挟まれた渥美半島に春がやってきた。黄色い菜の花の迎えを受け、体も心も軽やかだ。

半島の先端、フェリーのターミナルがある道の駅「伊良湖クリスタルポルト」から伊良湖岬に向けての海岸沿いには遊歩道

伊良湖岬灯台に続く遊歩道



が続いている。名古屋方面や外洋に向かう船が行き交う海を眺めながら歩く石畳は、気持ちがいい。約六百円で伊良湖岬灯台に、約一・一キロで恋路ヶ浜に着する。

太平洋の荒波が打ち寄せる恋路ヶ浜は、島崎藤村の叙情詩「椰子の実」の舞台でもある。歌詞にある「遠き島」を沖繩の石垣島に見立て、石垣島からプレートに付けたヤシの実を流す試みが行われた。そして二〇〇一年八月、渥美半島の浜辺でヤシの木の漂着が確認された。これを記念して「願いのかなう鍵」と名付けた支柱を恋路ヶ浜駐車場横に設置。訪れた人たちはハートをあしらった木製プレートに「ずっと一緒にい

# 菜の花をめで、貝に舌鼓

ようね」などと書き込み、南京錠で支柱に取り付けている。地元に住みながら「初めて来た」という女性の二人連れは、興味深そうにプレートを眺め、「永遠の愛を誓う鐘」を鳴らしていた。「いい人に巡り合えますように」。そう願った。

眺望も素晴らしい恋路ヶ浜は、半島の先端辺りから「日出の石門」までの約一キロ区間。恋いこがれる思いを詠んだ江戸期の和歌にも登場する。こうしたことから、NPO法人・地域活

▼メモ 伊良湖岬へは、JRと名鉄の豊橋駅から豊橋鉄道渥美線やバスを利用。車は東名高速・豊川ICから約90分。休暇村伊良湖の3月旬菜プレミアムコース「三河湾産の貝」は31日まで。料金は1室2人利用、1泊2食付きで1人1万1310円から。同休暇村☎0531(35)6411



性化支援センターが〇六年、プロポーズにふさわしい場所として「恋人の聖地」に認定した。

一方、春になるとこの辺りでは多くの貝が漁の最盛期を迎え、さまざまな種類が味わえる。三、四月は特においしいと地元の人が教えてくれた。ガイドブック「渥美半島 貝めぐり味めぐり」を参考に、休暇村伊良湖を訪れた。夕食は「旬菜バイキングプレミアムコース」。

バイキングと月ごとのテーマ食材を融合させたメニューで、三月は「三河産の貝」。料理長お薦めのタイラギガイとミルガイの刺し身が付く。タイラギガイは長径が三十センチを超える大きな二枚貝だが、食べられる貝柱は意外と小さい。タイラギガイに限らず、国内での貝類の漁獲量は年々、減っているという。心して、味わおう。(神納美桜子)

## 春の伊良湖岬 愛知県田原市



恋路ヶ浜にある「永遠の愛を誓う鐘」

「いつでも愛知県田原市で



三河産の貝類を味わうプレミアムコース